

🍡 今日も訪問へ行く！ 節分

今回の訪問では、ちょうど節分の時期であったため春が待ち遠しく思いました。



脳梗塞発症後、手先が上手く動かせず、
しかし懸命に訓練されたので、小さな色紙に
和紙で2月3日の節分飾りを制作されるまでに
回復されています。
そのお姿に、私たちはとても喜んでいます。

がお～



「がお～」とお面をかぶり、鬼に
なって楽しませて下さいました。
私たちが訪問した時には、いつも
楽しませようと、そのお心に感謝
するばかりです。

※許可を得て掲載しています

2月3日の節分とは、季節を分けるという意味で立春（2月4日）の前日をさします。

「鬼は外、福は内」と豆（炒った大豆）をまいて、邪気を祓った後に、年齢の数だけ豆を食べて、1年間の幸せを祈ると言われています。

これは、米と同じエネルギー源で霊力を持つとされる豆をまくことで、病や災いを祓い、更にその豆を食べることで力をいただけると考えられたからです。



訪問看護ステーション野の花は、節分の豆のごとくより一層の質の向上を目指して、学び・わかちあい・讃えあい、看護とリハビリテーションを提供してまいりますので宜しくお願いいたします。

※訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子※

第 76 回済生会学会、令和 5 年度済生会総会

訪問看護ステーション野の花も参加

令和 6 年 1 月 27 日から 28 日（日）の 2 日間、『第 76 回済生会学会 令和 5 年度済生会総会』が熊本県熊本城ホールにて開催されました。

「命を支える杖になる-済生のところとアウトリーチ-」というテーマで、全国の済生会病院で勤務する職員約 2000 人が熊本に集まりました。



JR熊本駅でくまモンがお出迎え



訪問看護部会参加者全員で撮影

「命の杖」という表象は、済生会創立時の医務主管であり、芝病院(現在の東京済生会中央病院)の初代院長であった北里柴三郎博士の言葉「医者は国民にとって命の杖とならねばならない」という信念に由来しています。

済生会は、「命の杖」として病院・介護老人保健施設・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、デイサービス等で入所から在宅介護に至るまで幅広い介護サービスなどの事業を展開しております。

◎北里柴三郎博士について



「近代日本医学の父」「感染症学の巨星」として知られる微生物学者・教育者。今回学会が行われた熊本県出身である。

「近代細菌学の開祖（細菌学の父）」のロベルト・コッホの弟子でドイツで学び、自分に課せられた使命が「命を支える杖」と固く信じ、祖国日本を医療で守ることに尽力した。

前日の1月27日（土）には、福祉施設長会議が行われ、全国の済生会が運営する訪問看護ステーション45事業所が参加しました。

現在の日本は、少子高齢化社会へと突入し、平均寿命も高い水準を保っています。

医療現場では、住み慣れた家で最後まで過ごしたいと希望される方が増え、私たち訪問看護師に求められる看護の質、在宅での訪問看護の役割の重要性は、年々高まっています。



会議には、石川県済生会金沢病院の管理者も参加されていました。今年初めの能登半島地震時には、済生会が一番に初動支援を受けたことについて、済生会の組織の偉大さと力に感銘を受けたと感謝の言葉を語られました。

7年前の平成28年、熊本も地震が発生し大きな被害を受けました。

熊本城の天守閣は復興しましたが、崩れたままの石垣は、地震の大きさを物がっており、いまでも復旧工事が続いています。



今回の学会にて撮影
崩れたままの石垣から地震の凄まじさが伝わってきました

1月28日（日）は総会が開催されました。

総会には、平成25年4月より第6代総裁に就任された、秋篠宮皇嗣殿下が御臨席され、全国の済生会で勤務する職員を敬愛し、能登半島地震災害にあわれた方々のことを心から案じておられました。そして、支援に出向いた職員に感謝の言葉を述べておられました。

その後の功労職員・永年勤続職員の表彰にて、奈良県済生会支部の職員のうち勤続年数10年13名、20年5名、30年8名が表彰されました。

看護部長は算水賞(けんすいしょう)を受賞されました。

算水賞とは、看護職の功績を認められた者に与えられる名誉なものです。

また、済生会奈良病院の看護師2名が「新型コロナウイルス感染病棟において看取りを体験した看護師の思い」・『「新型コロナウイルス感染症病棟設立」や「新型コロナウイルス感染症対策」に伴う一般急性病棟における看護師の退院支援への影響についての実態調査』という演題で看護の成果を発表しました。

様々なことを体験した2日間で大いに学んだことを私たち訪問看護師は糧とすることができました。



※写真は許可を得て掲載しています。

訪問看護ステーション野の花は、一層の質の向上を目指して、学び・わかちあい・讃えあい、野の花看護とリハビリテーションを提供してまいりますので宜しくお願いいたします。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子



今日も訪問に行く



2023年11月

奈良県看護協会主催の復職支援のための
ランチョンプレゼンテーションに参加しました。
看護協会は復職支援のための研修を
約7ヶ月にわたり数回に分けて様々な分野の
研修をしています。



*ご本人、協会の許可を得て掲載しています

今回の研修のランチタイム中に、
訪問看護の担当業務を知ってもらい、
就職時の参考にしていただくための企画を
行いました。
私が説明させていただいたときは、
14~15名ほどの参加者の方が
おられました。

私たちは認定看護師として、疾患を持ちながらも最期までその人らしく、
地域で暮らす事を援助できるように日々スタッフと頑張っています。
済生会奈良病院訪問看護ステーション野の花では、就職前の同行体験也大歓迎です。
ご興味のある方は是非ご連絡ください！



問い合わせ先 Tel 0742-34-9700 / Fax 0742-34-9701
受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00
第1・3土曜日 9:00～12:30

訪問看護ステーション野の花
訪問看護認定看護師 中田幸子

今日も訪問へ行く！

～2月小さな春を見つけました～

雪から雨へと変わり、雪や氷の解けだす頃となりました。



李(すもも)

花の名前の由来は諸説ありますが、実が桃に似ているけれど、桃と違って酸っぱいことから「酸っぱい桃」で酢桃（すもも）と呼ばれるようになり、その後「李（すもも）」という漢字が付けられたと言われています。

中国に、李下に冠を正さず（りかにかんむりをたださず）ということわざがあります。

スモモ（李）の木の下で冠をかぶり直すと、スモモ（李）の実を盗んでいる泥棒と間違われてしまうので、スモモ（李）の木の下では冠をかぶり直してはいけません。

という意味があり、そのことわざから「誤解」「困難」という花言葉が付けられたと言われています。

訪問先の団地に野の花訪問専用車を駐車しました。

ふと上を向くと「春がそこまで来ているよ」と知らせてくれました。



桃（もも）

桃の花の咲く季節は、春3月後半～5月、ソメイヨシノよりも少し早くに咲き始めます。

桃の花には、一重咲き、八重咲きがあり、花色も白、ピンク、赤などがあります。さらに枝垂れるものや葉が紫色を帯びたようなものまで、たくさんの品種があります。

花言葉は「チャーミング」「気立ての良さ」、由来は、桃が女性への敬いの象徴のためです。

一刀彫のお雛様



訪問看護ステーション野の花の利用者様のご主人が、作られた「一刀彫のお雛様の段飾り」です。

訪問時、玄関先のインターフォンを鳴らし、「おはようございます」と玄関を開けると、出迎えてくれます。

お伺いする度に、春の訪れを感じさせていただける瞬間に感謝するばかりです。

私たち訪問看護ステーション野の花一同、利用者様とそのご家族様と共に、季節を感じ、同じ時間の毎日と一緒に生きています。

病院理念である『心ある医療』を実践しますので、よろしくお願いいたします。



訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子



春季 大安寺西地区河川清掃に

訪問看護ステーション野の花看護師が参加！

2024年3月3日(日曜日)ひな祭り、大和川一斉清掃に参加するため、済生会奈良病院の職員11名が大安寺西小学校に朝7:50に集合し、地域の皆さんと共に春季佐保川清掃を行いました。

「古都奈良の佐保川に清流を 地域住民のふれあい 佐保川にホタルを！」

をモットーに、昭和35年5月第1回佐保川清掃を開催されて以降、現在まで続いています。



高度経済成長期であった当時の佐保川は、大量生産の反動でまさにドブ川同然でした。冷蔵庫、洗濯機、自転車等が乱雑に捨てられ、ゴミ捨て場同様だったようです。(BOD20mg/L以上あったようです。)



以来、古都奈良の佐保川に清流を取り戻すため、毎年清掃を実施しています。そして、毎回1300余名の参加があり地域住民のふれあいを深める活動となっています。

川清掃頑張りま〜す

また、来てくれてんな



地域の方とのふれあい
嬉しい言葉をいただきました

※写真は許可を得て掲載しています。

平成22年には、社団法人日本河川協会より「河川功労者表彰」を受賞しました。

平成23年より奈良県河川課のホームページで紹介され、社団法人日本河川協会の(川や水の活動団体名簿)にも登録されています。



古都奈良の佐保川に清流を取り戻したいとの思いから始まった佐保川清掃活動ですが、毎回多くの子ども達も張り切って参加をしてくれています。
今では佐保川にゴミを投棄する人は少なくなり、この地域の佐保川のBOD値も小さくなっています。

※BOD：水中の有機物を微生物が分解するのに必要な酸素の量

私たち職員 11 名も力を合わせて清掃を頑張りました。



たくさん拾いました

※写真は許可を得て掲載しています。

私たち済生会奈良病院職員は、『心ある医療』を実践し、地域・社会に貢献します。



🌸 今日も訪問へ行く 🌸



早咲きの桜

訪問看護ステーション野の花の近くで
早咲きの桜が開花しました。

梅の花のように香りはしませんが、
周りを華やかに明るい気持ちに
してくれます。



春の訪れを待つ桜

奈良の隠れた？桜の名所佐保川は
当ステーションの近くです。

今は、まだ固い蕾で春の訪れを
待っています。

暖かい春までもう少しの辛抱です。

ここから、利用者様のところへ訪問に出発です。



今日も訪問へ行く



3月27日 早朝

久しぶりに晴れ間が広がり、ますます春が近くなってきました。

訪問看護ステーション野の花近くの佐保川の堤防で、またも気の早い桜が開花したのを発見しました。



まだ、他の木の蕾は少しピンク色が覗いていたり。

固いものであったり。

咲くのが楽しみです。



行ってきます！

懐メロの、

♪厚いコート脱いで出かけませんか？

もうすぐ春ですね♪

と口ずさみながら今日もここから、出発です。



訪問看護ステーション野の花
事務 畑田典子



今日も訪問へ行く



桜が満開となり、春の陽気が漂っています。

佐保川のほとりの桜に見送られて、訪問先の患者様の下へ向かいました。

訪問リハビリテーションの効果：絶大

馬にも乗れます！



デイサービスに通いながら、ご自宅でもリハビリテーションを頑張っておられます。

スクワットは回数を重ねると、足がピクピクとなりますが、

現状維持が大切！

と毎日頑張っておられる姿にエールを送ります。



ファイト！

訪問看護ステーション野の花は、春風のようにより一層の質の向上を目指して、
学び・わかちあい・讃えあい、看護とリハビリテーションを提供してまいります。
宜しくお願いいたします。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子 

～今日も訪問へ行く 佐保川の桜～

訪問看護ステーション野の花の近く佐保川の桜が見頃を迎えました！



4月6日 土曜日 早朝



4月6日 土曜日 川沿いの歩道



4月6日 土曜日 午前10時頃

今年は、菜種梅雨の影響が開花が例年よりも遅くなりましたが、色鮮やかに花を咲かせてくれています。

開花を待つ楽しみが続き得をした気分です。

満開の桜に見守られながら、今日も元気に訪問へ出発です。



訪問看護ステーション野の花

事務 畑田典子

今日も訪問へ行く！

～ただいま 5 月！季節を感じてもらえると嬉しいです～



咲き誇る満開のツツジ

利用者様のお住まいへ訪問に行く道中、咲き誇る満開のつつじに目を奪われました。

ツツジはツツジ科ツツジ属に属する常緑樹の植物です。

1～3m程に成長し、3～6月に見頃を迎えます。

公園や道路沿いなどに多く植樹されていることから、日本ではなじみ深い植物でもあります。

ツツジの花言葉は「節度」「慎み」です。春先にみずみずしい花と葉をつける様子から、若く美しい女性を象徴する花とされていました。

そのような経緯からこれらの花言葉がついたと考えられています。



5月こどもの節句 鯉のぼりと兜

(利用者様が制作)

ちりめん細工とは、江戸時代後半、貴族社会や武家の女性、また裕福な商家の女性によって、着物を裁った後の残り布を利用して、人形や動物、花などをかたどった美しい袋物や小箱が作られるようになります。

今日それらを「ちりめん細工」と呼んでいます。

今回掲載させていただいた写真の作品は、訪問リハビリテーションを提供している83歳の利用者様が手づくりされました。

手先の器用さが必要で細かい針仕事ですが、寝る間もおしんで制作に夢中になると話して下さいました。

訪問看護ステーション野の花は、より一層の質の向上を目指して、学び・わかちあい・讃えあい、看護とリハビリテーションを提供してまいります。
宜しくお願いいたします。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子 

今日も訪問へ行く！

～訪問の途中、青空の下、悠々と泳いでいました～

5月5日はこどもの日



♪やねよりたかいこいのぼ～り
大きいまごいは～お父さん～♪
♪小さいひごいは～子供た～ち～
おもしろそうに泳いでる～♪



端午の節句は、古来より中国で行われていた伝統行事です。

奈良時代に日本へ伝わり、江戸時代に男の子の健やかな成長と幸せを祈る行事として、武家を中心に広まりました。

対して「こどもの日」は、1948年に制定された「国民の休日」です。

それまで男の子のための日であった端午の節句の5月5日を、女の子を含めたすべてのこどもの日にしようという声が多かったため、この日を「こどもの日」に制定されました。

こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝することが祝日の趣旨とされています。

世界には様々な国にこどもの日がありますが、5月5日に制定されているのは韓国と日本だけだそうです。



今日も訪問へ行く！



うつさない！うつらない！
感染対策継続中！



～状況に応じて防護具を使い分けて使用しています～



～ケアの前後には、必ず手洗い、手指消毒を行います～



今日も訪問へ行く！

～今年もマツバギクが咲きました～

ステーション玄関先花壇にマツバギクが咲き乱れています



マツバギクは、菊に似たかわいらしい花を咲かせる多肉植物です。

南アフリカ原産で暑さや寒さに強く、路地の花壇や石垣で育てやすい品種です。

花言葉は、

「忍耐」、「ゆったりとした気分」、「心広い愛情」、「無邪気」、「可憐」

などがあります。

これらの意味は、花が日の当たるときしか開かない様子に由来しているといわれています。

訪問看護ステーション野の花は、心広い愛情をもって、

より一層の質の向上を目指して、学び・わかちあい・讃えあい、

看護とリハビリテーションを提供してまいります。

宜しくお願いいたします。



訪問看護ステーション野の花 所長 丸山節子

今日も訪問に行く

・・・よりも段階前ですが



5月初め、本年度の新人に混ざって研修を受けました！
一緒に訪問看護の研修を受けていると、初心に帰って
改めて学んだり、気づくことが多々ありました。



モッコウバラ満開のいい季節です。
大量に咲く様子は圧巻です。

さあ、私たちも研修を終えていざ出発！



訪問看護ステーション野の花 中田幸子

